

学力向上に向けて

～令和6年度全国学力・学習状況調査より～

市川市教育委員会
学校教育指導課
令和7年2月13日

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への**教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。**

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の内容

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

[小学校:国、算 中学校:国、数]

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

3 調査を実施した学校・児童生徒数(調査日:令和6年4月18日)

	対象学校数	学校数(実施率)	児童生徒数
小学校	39校※1	39校(100%)	3,341人
中学校	16校※2	16校(100%)	2,886人

※塩浜学園(前期課程・後期課程)を含む

4 教科に関する調査[国語、算数・数学、]の結果について

小学校6年生 平均正答率(%)

中学校3年生 平均正答率(%)

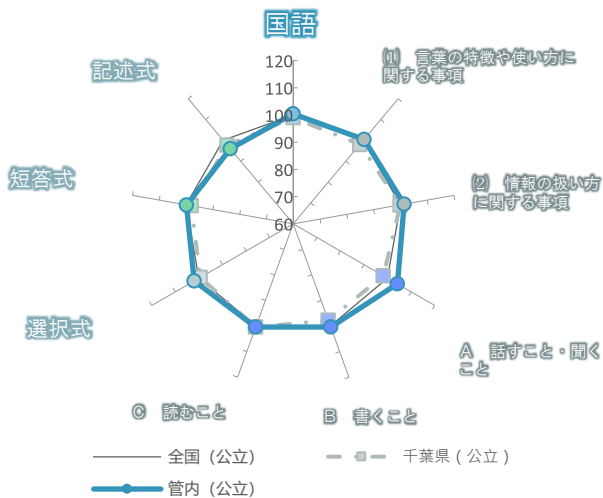
小学校	市川市	千葉県	全国	中学校	市川市	千葉県	全国
国語	68	67	67.7	国語	58	57	58.1
算数	66	63	63.4	数学	53	51	52.5

※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、千葉県及び市川市は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

5 小学校【国語】に関する調査結果

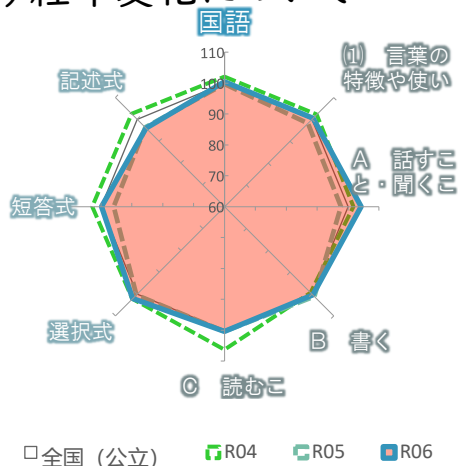
※各レーダーの数値は、全国の平均正答率を100とした場合の相対値です。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」や、「情報の扱い方に関する事項」の領域では、全国平均と同等又は上回りました。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」や記述式の問題は、全国平均を若干下回り、課題があります。

(2) 経年変化について



(3) 全国平均と比べ、同等又は 良い状況と考えられること

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討すること。
- ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

(4) 課題があると考えられること

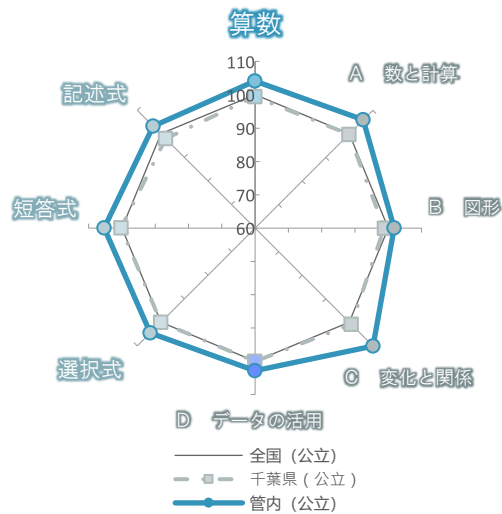
目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

【課題改善のポイント】

事実と感想、意見とを区別して書くためには、事実を客観的に書くこととともに、事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要です。

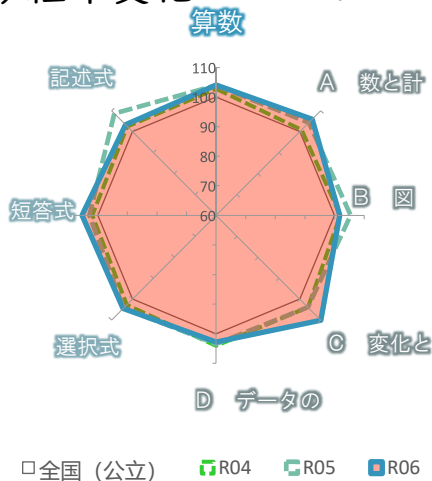
事実あるいは考えのどちらかが不足している児童には、伝えたいことを児童同士で交流しながら、それを支える事実としてふさわしいものを取り上げられているかを確認したり、事実を裏付けとすることでどのような考えを伝えたいのかを確認したりすることができるよう、児童同士で書いた文章を読み合い確かめ合う場面を設定することも効果的です。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均を上回る結果となりました。
- ・「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4領域で、全国平均を上回りました。
- ・記述式、短答式、選択式の問題全てで、全国平均を上回りました。

(2) 経年変化について



(3) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること

- ・問題場面の数量関係を捉え、式に表すこと
- ・速さの意味について理解し、道のりと時間の関係について考えること

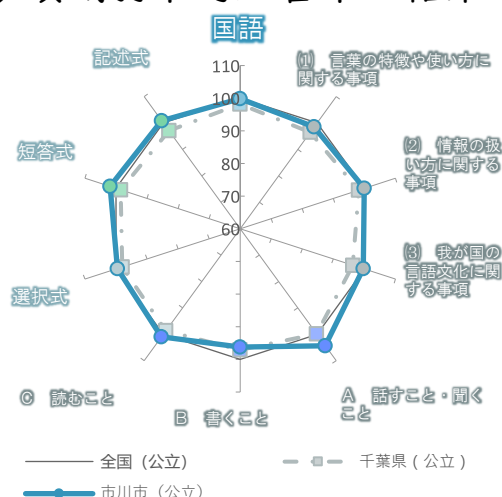
(4) 課題があると考えられること

角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述すること。

【課題改善のポイント】

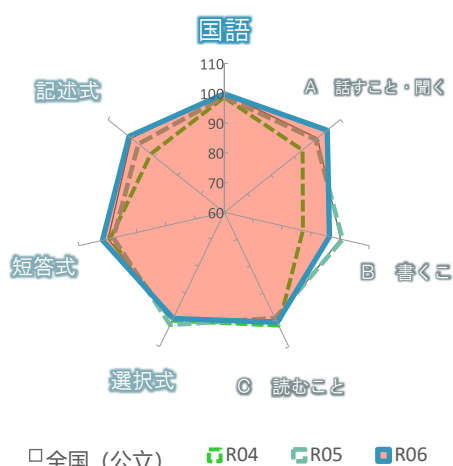
図形を構成する要素に着目し、底面や側面という用語を用いて角柱の性質について説明できることが大切です。そのために、立体図形を観察したり構成したりする活動を通して、図形を構成する要素に着目し、角柱を分類したり表に表したりして、底面や側面の形、頂点や辺や面の数について整理し、角柱の性質を理解することが重要です。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」や、「情報の扱い方に使い方に関する事項」の領域では、全国平均と同等又は上回りました。
- ・「書くこと」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を若干下回り、課題があります。

(2) 経年変化について



(3) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること

- ・必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること。
- ・資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約すること。

(4) 課題があると考えられること

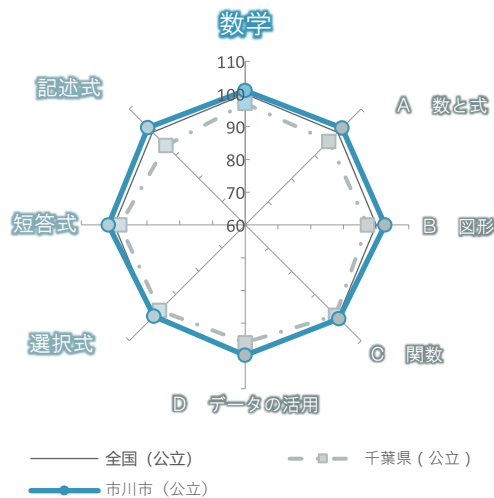
目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。

【課題改善のポイント】

伝えたいことが明確になるように、材料を比較しながら取舍選択したり、関係付けをしてまとめたりするなど、集めた材料を整理することが大切です。

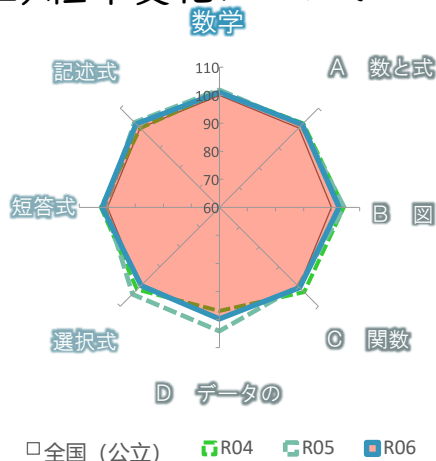
伝えたいことや、考えなければならないことを出し合い、それらを観点として集めた材料を整理するなど、自分が書こうとするものの構想を具体化できるように指導することが効果的です。その際、必要に応じて、交流しながら、材料を整理する観点を増やしたり、足りない情報を集めたりできるようにするなど、個々の生徒が自分に合った学習の進め方ができるようにすることが大切です。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均を上回る結果となりました。
- ・「数と式」「図形」「関数」の3領域で全国平均を上回りましたが、「データの活用」の領域は、全国平均を若干下回りました。
- ・記述式、短答式の問題では全国平均を上回りました。

(2) 経年変化について



(3) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えること。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。
- ・数学的に表現したことや数学的な結果を事象に即して解釈すること。

(4) 課題があると考えられること

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

【課題改善のポイント】

日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することが重要です。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという活動が大切です。この活動を通して、データの収集の仕方や分析の方法は適切か、結論は妥当かなど、批判的に考察できるようにしていきます。

9 児童生徒質問紙調査の主な結果について

(1) 小学校の結果

朝食を毎日食べていますか

自分には、よいところがあると思いますか

肯定的な回答が多かった質問

全国平均と同等またはそれ以上

将来の夢や目標を持っていますか

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

全国平均と比べ、肯定的な回答が3ポイント以上低い質問

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

(2) 中学校の結果

人が困っているときは、進んで助けていますか

学校に行くのは楽しいと思いますか

肯定的な回答が多かった質問

全国平均と同等またはそれ以上

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがあります

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

全国平均と比べ、肯定的な回答が3ポイント以上低い質問

国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

10 「児童生徒質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関について

市川市では、次のような児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向がありました。

- ・朝食を毎日食べ、毎日決まった時間に寝起きすることができる。
- ・学校の授業時間以外に、1日あたり1時間以上勉強している。
- ・1日あたりのテレビゲーム（スマホ等含む）をする時間が1時間より少ない。

生活習慣や学習習慣が身についている児童生徒

- ・自分にはよいところがある。
- ・人が困っているときは、進んで助ける。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。
- ・普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある。

規範意識・自己有用感の向上について

- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。
- ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりできる。
- ・学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

主体的に学んでいる児童生徒

生活習慣・学習習慣の向上

主体的な学び

学力
向上

規範意識・自己有用感
の向上

学力向上のポイント

11 学力向上に向けた新たな取組について

市川市教育委員会では、以下の取組を通し、学力向上を推進していきます。

①主体的・対話的で深い学びの実現

主体的・対話的で深い学びを通じた授業改善を図り、身に付けた知識や技能を学習や生活に活用していく力を高めるために、問題解決型学習の充実を図ります。

児童生徒が自ら課題を設定し、解決に向けて情報収集・分析などを行い、周囲の人々と協働しながら進めていく探究学習を進めます。児童生徒が自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けるだけでなく、自らの学びを振り返り、より物事や自分自身に関する内省的な考えを深められるようにしていきます。

②GIGAスクール推進事業

一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを活用することで、学校現場のICT環境の活用を促進を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や学習活動の一層の充実を目指し、児童生徒の資質と能力の育成を図ります。

③道徳教育・人権教育の充実、読書活動の充実等

特別の教科「道徳」を中心に、学校の教育活動全体を通じた道徳教育の質の向上を図り、命を大切にする心やお互いを認め合う心、強調する力、規範意識等の道徳性を身に付け高めます。

感性を豊かにし、想像力を高められるよう、家庭や地域と連携して幼児期からの読書活動（様々な本、図鑑、新聞、雑誌等を読んだり、何かを調べるためにこれらを読んだりすること）を推進し、読書環境の整備を進めます。

④生活習慣を身に付ける取り組み

健全な生活習慣を身に付けるために、検診や調査に基づき、一人ひとりの実態に応じた指導・支援を行います。

また、家庭・園・学校が一体となって、「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣を身に付ける取組を進めます。